

令和5年度第2回 文京区障害者差別解消支援地域協議会 要点記録

日時 令和6年3月19日（火）午後2時31分から午後3時59分まで

場所 障害者会館A・B（文京シビックセンター3階）、オンライン併用

<会議次第>

1 開会

2 議題

- (1) 障害者差別解消の推進に係る区の実施について **【資料第1号】**
- (2) 「文京区手話言語条例」及び「文京区障害者による情報の取得及び利用並びに意思疎通の促進に関する条例」について **【資料第2号】**
- (3) 心のバリアフリーハンドブック改訂案に対する意見集約結果について **【資料第3号】**
- (4) 事例検討（報道発表事案について） **【資料第4号】**

<障害者差別解消支援地域協議会委員（名簿順）>

出席者

高山 直樹 会長、志村 健一 副会長、住友 孝子 委員、賀藤 一示 委員、横枕 年子 委員、古市 理代 委員、寺澤 弘一郎 委員、渡辺 泰男 委員、市川 敦 委員、竹内 珠妃 委員、諸留 和夫 委員、大橋 久 委員、安藤 彰啓 委員、藤枝 洋介 委員、安達 勇二 委員、鶴沼 秀之 委員、竹越 淳 委員、矢内 真理子 委員、新名 幸男 委員

欠席者

二瓶 紀子 委員、内海 裕美 委員、佐久間 稔 委員

<幹事>

出席者

川崎区民部経済課長、橋本福祉部障害福祉課長、小島保健衛生部予防対策課長、大塚保健サービスセンター所長、木口教育センター所長

1 開会

事務局：委員の退任について報告。ホテル椿山荘東京総支配人の山下委員は本協議会を退任する。後任については協議中である。

会長挨拶：これは差別だということを論理的にしっかりと発言できる人というのはあまりおらず、障害者差別の問題は発生しにくいという状況がある。だからこそ、この協議会で文京区内のいろいろな声を持ち寄って議論し、具体的な提案をしていきたい。

2 議題

(1) 障害者差別解消の推進に係る区の実施について

事務局から資料第1号について説明。

【意見】お届け講座について。障害当事者と一緒に企業等に出向き、生活や実態を伝えていくなど工夫ができるとより良いと思う。

【意見】心のバリアフリーハンドブックの配布について。対象学年が小学4年生と中学1年生と決められているが、例えば高校生などに配ると認識の違いも出てくると思うがいかがか。

(事務局回答)

受け止め方というのは成長と共に変わってくると考えられるため、ご意見は今後の啓発活動のための参考にしたい。

【意見】他のイベントや施設、例えばハートフル工房（障害者施設商品販売会）や就労支援センター、あるいは障害者の方を雇用している事業所などにも心のバリアフリーハンドブックを配布すると良いと思う。

(2) 「文京区手話言語条例」及び「文京区障害者による情報の取得及び利用並びに意思疎通の促進に関する条例」について

事務局から資料第2号について説明。

【意見・質問】特になし

(3) 心のバリアフリーハンドブック改訂案に対する意見集約結果について

事務局から資料第3号について説明。

【質問】 ヘルプマークがどこでもらえるのかという記載がないが、どこで配付しているのか。最近つけている方が増えてきたが、まだまだ周知されていないと思うので、どこでもらえるかという情報は載せても良いと思う。

(事務局回答)

文京区では、区役所の障害福祉課の窓口でお渡ししている。そのほか都内では、都営交通の地下鉄の駅でも配付をしている。配付場所については、今後の改訂の際に掲載するよう検討する。

【意見】 27ページの合理的配慮について。「合理的配慮」という言葉については、思いやりとか手助けという意味合いより、既存のルールの調整や変更という差別を是正するためのものだと思う。今までの慣習を変えていく、その人に合わせて調整していくというような本質について、今後より周知されると良いと思う。

(事務局回答)

区において差別解消の取組を進めていく上で、「合理的配慮」という言葉自体は使っていくことになると思うが、お話にあったような変更や調整ということが本質であるところは受け止めさせていただきたい。

また、差別の問題がどこにあるかという点、やはり合理的配慮の提供についての認識や理解の差にあると考えられる。この認識の違いの部分を近づけていくために、一人一人が知識などの底上げをしていくことが必要であり、区として引き続き周知啓発に取り組んでいきたい。

【意見】

- ・心のバリアフリーハンドブックがどのように活用されているか、効果測定が必要。
- ・学校での副教材として活用して欲しい。
- ・災害時のことについて、どのような配慮が必要なのか詳しく掲載して欲しい。

(4) 事例検討（報道発表事案について）

事務局から資料第4号について説明。

【事例に関する意見】

- ・歴史的なものを守りつつ、バリアフリー化を進めることは非常に難しい。だからこそ、建設的対話を行って工夫をしていくことが重要だと思う。
- ・車椅子を利用される方が映画館で差別を受けたことをSNS上で投稿したところ、それに対する差別的コメントでSNSが炎上するということがあった。障害者理解のために、この心のバリアフリーハンドブックのような啓発物を利用して、小さいうちからいろいろな事象に対して理解を深めるということが大切だと思う。

【その他全体に関する意見】

- ・災害時における支援も重要である。最近地震も増えてきたので、なるべく早めに、当事者を含めた丁寧なシミュレーションが必要だと思う。
- ・同じ障害で同じ程度だとしても、その方のご経験や生活によって全く違うものになる。当事者の人に発言していただいて、理解が一緒にできていくような形の合議体のようなものができていくと良い。
- ・私たちの常時が誰かにとっては非常時かもしれないという想像力を共有するところから始めなければいけないと思う。
- ・障害者が全ての健常者と一緒のことができるような環境でなければいけないと思う。そのためどうしたら良いのかということについて今後議論していくべき。